

郵便創業 150 年、最近手紙書いてますか？

険太くん、手紙を受け取る

ある日の昼下がり、険太くんの足は今日も近所の空き地に向かいます。近所のネコを集めた井戸端会議で議長を務めるネコっちに会うためです。

「やあネコっち、最近うれしいことがあってさ。転校した友達から手紙が届いたんだ。たまにメールするくらいだったけど、手紙ってなんか特別な気がして、こんなにうれしいものなんだね」

「そうだね。瞬時にコミュニケーションが取れる時代だからこそ、便箋に手書きして、封筒に収めて、糊付けして、切手を貼って投函する。その手間が人の心に明かりを灯すんだろうね」

「うん。ボクもそう思う」

「ところで険太くん、今年は日本の郵便事業が始まって 150 年の記念すべき年なんだニャ」

「150 年って歴史が長いようで、意外と短くない？」

「険太くんの言う通りだニャ」



険太くん

ネコっちは 09 年発行の『少年マガジン』『少年サンデー』創刊 50 周年の記念切手を買ったニャ。



ネコっち♪

ネコっちのお話⇒『それぞれの制度には根本となる哲学があるニャ』

150 年というのは、日本に近代郵便が設立されてからの年月だよ。それ以前にも日本に郵便制度はあったんだ。飛脚って険太くんも聞いたことあるだろ。でも飛脚は日数も掛かったし、値段も高かったんだ。江戸ー大阪間を丸 2 日（廉価便は 8～9 日）で届ける仕立（チャーター便）は約 140 万円も掛かったらしいよ。その制度を「安くて速い」ものに変革させたのが、明治政府ができてから 4 年後の今から 150 年前のことだったんだね。安く・速くの考え方が今も生きているのはすごいね。今年の 10 月には『国際文通週間』ほか 3 種の切手が発行されるからこの機会に注目してほしんだ。保険制度も長い歴史があるけど、そこには安くて安心の考え方があるよ。自分なりの安心を是非手に入れてほしいんだニャ。

★保険に関する疑問は、些細と思われ
ることでもご遠慮な
くお電話ください。

株式会社みらいふ

住所：京都市右京区西京極午塚町 3 0

TEL：075-863-0808 FAX：075-863-0809

Mail：news@k-milife.co.jp

